

ベルーフニュース vol.35

発行日：2020年 05月 05日

♪2020年5月のCOVID-19ベルーフ対応です

新型コロナウイルスに対しては日本情報と共にドイツ情報を判断基準にしています。日本情報は地域の個別対応への判断、ドイツ情報はグローバルと中長期への対策判断にしています。ドイツ情報の特徴はロベルトコッホ研究所の詳細データとその分析、及びメルケルによるドイツ政府の見通しと政策内容です。ドイツ情報は客観性に基づいた、風通しの良さを買っています。

ベルーフの新型コロナウイルス対応は利用者、卒業者、クリニック、大学、企業、及び利用申し込み向けに取り組んでいます。

利用者向けには4月6日からリモートワークによる在宅受講を実施しています。在宅利用はかねてからの課題でしたが、この状況は導入の好機となっています。毎日の利用スケジュールはリモート以前と変わらず、月～金曜日9時30分研修開始から16時30分終了で行っています。事業所はオープンしていますが、担当インストラクターはリモートによるもので在宅です。職員の在宅勤務は以前から実施していますので運用上の支障はありません。4月30日現在の利用者の皆さんの反応は、リモート以前と取組みの成果は変わらないとの評価です。方法の変更でサービスが落ちるのを最も危惧していましたが一安心です。今後もこの点は重きを置いていきます。

就労している卒業者への対応はリモートによる支援を行っています。ほとんどが在宅に勤務が切り替り、環境の変化に対しての一時的な不安で支援面談の依頼は増えていますが、徐々に落ち着いています。相談と話し相手がいることで安心できるようです。

クリニックへの対応は就労移行の対応情報をお伝えし、今後の連携の目安を提供しています。診察の頻度、手続きの増加、要望の中継ぎ等が生じてい

ます。転変する状況変化の中で、中長期的な視点が必要と認識しています。

大学向けには情報収集を行っています。3月という卒業の時期に当たったので、卒業者のフォローがどの様に行われているのかを伺っています。閉鎖されているところが多く、大学の機能はほぼ止まり、キャリアセンターも窓口は開いていますが、学生への支援は休止という状況です。卒業後ベルーフを利用する予定者が3人いましたが、1人は3月から利用を始めており2人は5月開始で進めています。今後も新しい受け入れは行っていきます。

企業向けには業務及び採用についての現状を伺っています。3月までの実習や採用検討についての連絡は頂きましたが、あまり明確ではありません。在宅勤務に成っているところが大半で、業務の変更や構築に取り組んでおり、採用については時間が掛かるようです。ベルーフとして就労活動は継続して行っていく方針で、企業アプローチはこつこつ続けています。

利用申し込みへの対応はリモートによる利用相談会を行っています。メールや電話でのお問い合わせに対してリモートでの実施をご案内し、パソコンやスマホ等で繋いで頂いて、ベルーフの利用内容の案内と個別の相談に応じております。すでに、2件の受付相談の実施を行っています。

現在、実施している方策は一過性のものと恒常的なものが混在しています。今後は中期的な見通しを立てて、恒常的な新システムにしていく必要があるとの認識で取り組んでいます。5月の現時点では、ドイツにおいて社会システムの回復が徐々に行われており、美術館、博物館、公園、等公共的な施設の稼働から始まっています。次は学校等教育施設の稼働が予定されています。いずれも、再生産数を基として、2月以降のデータ推移と病勢の変化の関連性の推測に依っています。ベルーフはこれらを参考に対応を進めます。

就労移行支援事業所ベルーフ

東京都指定障害福祉サービス事業所 1310500739

〒112-0002 東京都文京区小石川5-4-1 瑞穂ビル9階

E-mail info@beruf.xyz Web <http://beruf.xyz/>

Facebook <http://www.facebook.com/beruf.xyz/>